

北海道における人口減少集落の社会基盤の状況に関する研究

●研究担当：北方建築総合研究所 居住科学部居住科学グループ

研究の背景・目的

人口減少、高齢化が著しい北海道では、これまで地域の生活を支えてきた社会基盤（都市インフラ、生活サービス等）を今後とも同じように維持することが困難であることから、これからの人口減少社会に対応できる持続的な地域の姿へと転換していくことを考えていく必要があります。

本研究では、人口減少が進む道内市町村が持続的に産業基盤、生活基盤を維持していくための集落のあり方を探るため、現状の集落の状況、課題の把握と集落における都市インフラ、生活サービス等の状況について把握しました。

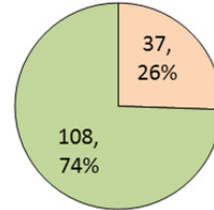
研究の概要・成果

この研究では、道内の集落の状況について各種調査により実態把握を行いました。結果の概要は以下のとおりです。

- 道が行った集落实態調査によれば 3757 集落のうち集落人口 100 人以下の集落が過半数を占め、高齢化率の平均は 36% で、高齢化率が 50% を超える集落が 475 集落（12.6%）となっています。相互扶助や資源管理などの集落機能の低下が 584 集落（15.5%）で見られ、241 集落（6.4%）で消滅の可能性があることが示されています。
- 集落問題は第 1 次産業の衰退により、就業の場がなくなることでの若年層の転出と少子化による人口減少、高齢者の増加が主な要因と考えられます。
- 集落での生活環境に関しては、人口減少が交通、都市利便施設の衰退を招いており、特に車を持たない高齢者の生活が困難になる傾向があります。
- インフラに関しては人口密度の低い集落部でも上水や道路の整備が普及しており、今後の人口減を考慮すると維持管理費の負担を低減することが大きな課題と考えられます。

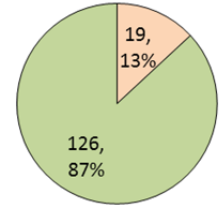
今後の展開

道内の集落の状況及び社会基盤の実態の課題の把握によって、今後の道総研における地域を対象とした研究課題設定、将来の集落のあり方を検討する基礎資料が得られました。今後は集落地域の課題について解決していく具体的方法などについて研究を実施していく予定です。



■ 単身世帯 ■ 複数人世帯

図 1 集落住民の世帯構成
（集落住民アンケート調査）



■ 車無し ■ 車運転有り

図 2 車運用の有無
（集落住民アンケート調査）

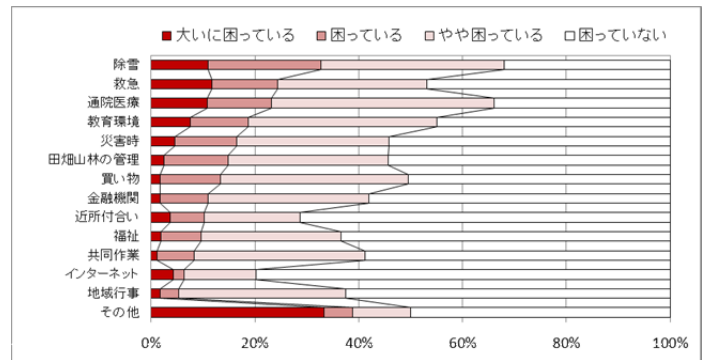


図 3 集落生活で困っていること
（集落住民アンケート調査）

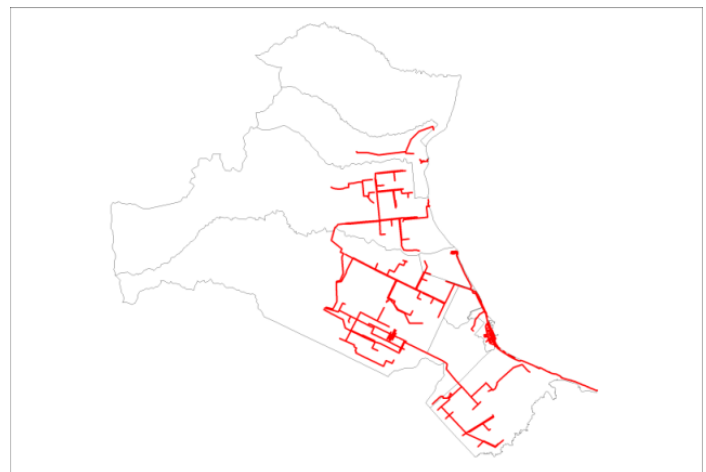


図 4 A町水道管路網

※A町では上水道は総延長約 262km で市街地内が約 20km、農村部が 242km で農村部が約 92% を占めている。集落部の人口は約 30% であるため一人あたりの管延長は市街地部の 27 倍になる。